

FIA国際ショナルラリー 2019年JAF全日本ラリー選手権第1戦 2019年JAF東日本ラリー選手権第3戦  
2019年日本スーパーラリーシリーズ第1戦 Rally of Tsumagoi [JAF公認No.2019-0001]

開催日：1月31日～2月3日 開催場所：群馬 格式：国際 主催：AG.MSC北海道 [クラブ登録No.公認01001]、  
JAC [クラブ登録No.加盟10003]、ASAMA [クラブ登録No.加盟10008]

フォト/中島正義、小竹充、JAFスポーツ編集部 レポート/JAFスポーツ編集部

## 土壇場の逆転劇で新井敏弘組 WRX が雪の開幕戦を制す!



SS1のスピで大きく出遅れたものの、最終日によもやの勝利が転がり込んだ新井敏弘/田中直哉組が新生JN1クラス初戦を制した。

**全**日本ラリー選手権は今年もウインターラリーで幕を開けた。国内ラリー冬の風物詩としてすっかりお馴染みとなった「Rally of Tsumagoi」だ。今年も国際格式ラリーである日本スーパーラリーシリーズに加え、JAF東日本ラリー選手権が併催され、計56台が走り初めの一戦に臨んだ。

今回も、従来のスタイルを踏襲して、金曜夜からナイトステージを走り込む3LEG制として行われた。まず金曜LEG1はギャラリーステージとなった「Nitazawa Baragi」2本を含む5SS、計19.80kmを走行。土曜LEG2は「Panorama」、[Omae Suzaka]といった名物ステージを中心に7本、計31.33kmを走る。

日曜LEG3は「Panorama」と並ぶ高速ステージとして知られる「Aisainooka」2本10.94kmのほか、「Kadokai Panorama」など計5本、16.28kmを用意する。計18SS、83.69kmのスノー&アイスを巡るバトルが展開された。

今年からJN1クラスへと名称変更された最

速の旧JN6クラスは、奴田原文雄ランサーが欠場したが、スバル勢は昨年のチャンピオン新井敏弘選手のほか、勝田範彦、鎌田卓麻そして柳澤宏至といったフルメンバーが顔を揃えた。

しかし金曜LEG1のオープニングステージ、注目のSS1「Panorama」では新井/田中直哉組が高速ストレート上で、スピを喫して30秒弱をロスと、いきなりハンディを抱えてしまう。代わって、鎌田/鈴木裕組、勝田/石田裕一組の2台が頭一つ抜け出すが、徐々にリードを広げた鎌田組が勝田組に5.3秒のリードを作ってLEG1をトップで終えた。

明けたLEG2に入ると反撃のペースを上げた新井組がSS6から4連続ベストで、鎌田組とのピハインドを削り取るが、鎌田組もこの日最終のSS12で新井組を4秒弱突き放すスーパーベストをマークする。新井組はこの日、DAYベストを奪い、勝田組を僅差ながらも逆転して2位まで盛り返したが、この時点でも鎌田組には21.1秒の遅れを取っており、形勢逆転は厳しい状況に追い込まれた。

鎌田組はLEG2までの12本のSSの内、ベストは4本にとどまるもセカンドベストも5本奪取とステージを選ばない速さが今年が目立った。LEG3に入ると、それを裏付けるように2本めのSS14から3連続ベストとペースを上げ、勝利をいよいよ手繰り寄せたと思われた。

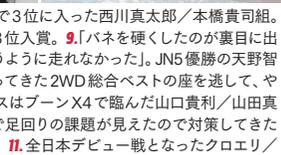
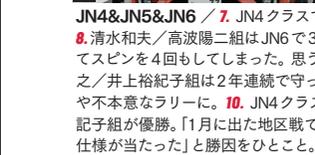
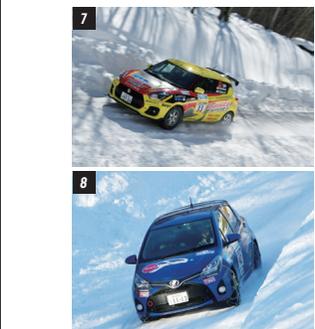
しかし、残すところ後2本となったSS17「Aisainooka」の高速コーナーで鎌田WRXはコースオフ。脱出に手間取り、大きくタイムロスし、新井組に首位を明け渡してしまう。鎌田組は最終のSS18でベストを奪うも、SS17の



惜しくも勝利を逃した鎌田卓麻/鈴木裕組。だが「LEG2では追いつけなかった。ゼッケンもあるけど、雪国育ちゆえの経験値の高さは認めざるを得ない」と勝者、新井選手も脱帽の速さを見せた。



**JN1&JN2&JN3** / 1. JN3は雪国からは遠い九州出身の筒井克彦/松本優一組が猛練習の成果あって優勝。2.4。「スーパーチャージャーならではの運転のしやすさに助けられた。極端に苦手とする路面があまりなかったし、アペレージの低い低ミュー路が速かった」。JN2クラスはヴィッツGRMNを駆る眞貝知志/安藤裕一組が快勝。3. JN2の2位にはシトロエンDS3をドライブした山村孝之/井沢幹昌組が入賞。5. 昨年の新城ラリーでチーム監督を務めた全日本スラロマーの牧野タイソン選手がJN3クラスにドライバーで参戦。「クルーの立場を理解するために走りましたが、ラリーの楽しさをたくさん知ることができてよかったです。次戦からはまた監督に戻ります」。6. 勝田範彦/石田裕一組はLEG2以降、ペースを上げられず、3位に甘んじた。



**JN4&JN5&JN6** / 7. JN4クラスで3位に入った西川真太郎/本橋貴司組。8. 清水和夫/高波陽二組はJN6で3位入賞。9.「バネを硬くしたのが裏目に出てスピンを4回もしてしまった。思うように走れなかった」。JN5優勝の天野晋之/井上裕紀子組は2年連続で守ってきた2WD総合ベストの座を逃して、やや不本意なラリーに。10. JN4クラスはブーンX4で臨んだ山口貴利/山田真記子組が優勝。「1月に出た地区戦で足回りの課題が見えたので対策してきた仕様があった」と勝因をひとこと。11. 全日本デビュー戦となったクロエリ/加勢直教組は初走行のスノーラリーで堂々の2位入賞。12. 権田哲也/ Jacky組はJN5で2位入賞。13. JN4の2位には古川寛/大久保敏組が入った。14. 今年はJN6クラスにエントリーする大倉聡/豊田耕司組は安定した走りを見せて快勝した。15. JN5の3位にはベテラン南野保/ Paul SANTO組が入った。

ロスを取り返すことはできず、結果、新井組が10.4秒差で鎌田組を下して幸先の良い1勝をあげるようになった。勝田組はSS14でのコースオフも響いて鎌田組をパスすることはできず、3位にとどまった。

「結果的にはトップ3がいつミスするかという勝負になったね」と振り返ったのは新井選手。「20秒差という数字は普通に走ったら追いつくのは無理。正直、行けて10秒差くらいまでかなと思った」と想定外の勝利と振り返った。

「でも自分がスピンしなかったら、卓麻とはシーソーゲームになってたと思うんで、そうなれば面白かったかな。今年は凍る所とシャーベットになる所の両極端があって、走り方を分けなければいけなかったの、凄く難しかった。中



でも卓麻がコースオフしたSS17はシャーベットで特に難しかった」  
しかしながら新井組は終わってみれば、スピンしたSS1以降、SS2から最終SSまで8本の



ベストを奪い、それ以外のSSもすべてセカンドベストでラリーを終えた。最後はチャンピオンらしい坂さん出た安定感が勝利を呼び込んだと言ってもいいかもしれない。